様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 3 月 31 日現在

機関番号：３４５０６
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2008～2011
課題番号：２０７２００８５
研究課題名（和文）　アメリカ小説の想像力と紙幣制度変遷に見られる相互関係

研究課題名（英文）　On the parallel relationship of the imaginations found in American Literary Fiction and American Paper Currency System

研究代表者
秋元　孝文（AKIMOTO TAKAFUMI）
甲南大学・文学部・教授
研究者番号：70330404

研究成果の概要（和文）：

アメリカ小説における想像力と、その同時代の紙幣制度の間にはなにかしらパラレルな関係が見いだせるのではないかという仮定のもとに、Paul Auster, Mark Twain, Frank Baum, Herman Melville という 4 人の作家の作品を取り上げて考察を行った。Auster 作品では 9.11 以後の陰謀論的想像力との共鳴が、Twain 作品ではサインと主体の分離の問題にバイメタリズムとの関連が見られ、そして Baum 作品ではエメラルド・シティの「緑」に紙幣の「グリーン」、そして同時代の紙幣のデザインに紙幣的なレトリックが見られることを証明した。Melville の Bartleby についてはその複製への抵抗を fantasy note と呼ばれる偽札との関連で論じた。

研究成果の概要（英文）：

On the assumption that there can be a parallel relationship between American fiction and its contemporary monetary system, especially paper currency system, I wrote essays on the works of 4 American writers, namely Paul Auster, Mark Twain, Frank Baum and Herman Melville. In Auster’s work, we can find the disbelief in the common reality, which is typical in post 9.11 America and can be found its contemporary joke note, Deception Dollar. In Twain’s work I argued on the separation of a person and his signature, as an issue that is parallel to the logic of bimetallism. I discussed Baum’s work as an allegory of the rhetoric of paper money, with the color green as its ground, and in Melville’s short story, I found its protagonist’s resistance to copying as something that is based on the same rhetoric that can be seen in its contemporary fantasy note.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009 年度	700,000	210,000	910,000
2010 年度	700,000	210,000	910,000
2011 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総　計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：　アメリカ文学
科研費の分科・細目：英米文学
キーワード：アメリカ文学、貨幣、紙幣、想像力

１．研究開始当初の背景

当該科研費の受給以前から取り組んでいたテーマゆえ、すでにBenjamin Franklinがデザイン、印刷した大陸通貨と William Burroughs の肖像が載った地域通貨を通して、グローバル化するマネーとそれに対するオルタナティヴを読み取る論考、Horatio Alger *Ragged Dick* で扱われる「見た目」の問題と同時代の偽札の関係を扱った論考、現代アーティストJ.S.G.Boggsの活動から貨幣と文学の比較研究の可能性を探る論考、と３つの各論を完成させた状態で当研究はスタートした。

貨幣と文学の関係を探った研究としてはアメリカ文学においてはWalter Ben Michaels, より広い英米文学全般を扱ったものとしてMarc Shellの成果があり、本研究もそこから大いにアイディアを得ているが、それ以外には国内外とも同様のテーマでの研究はあまり見られない状況であった。

紙幣と文学作品という普段はあまり並列されることのない二つのメディアを同時代のテクストとして比較することにより、通常の文学研究ではあまり考察されることのない、貨幣にあらわれたその時代時代の思想が、文学作品においても共鳴してあらわれていることを確認し、同時代的なイデオロギーの産物として両者を並置し、文学研究の範疇を一歩外側へと拡大した見方を提示することを目指した。

テクストや作家のみを扱う従来の文学研究とは異なり、より文化研究的なアプローチを持って歴史的な視点を交えていく手法や、あまり文学研究では取り上げられることのない経済の問題を扱うことに、学際的な研究としての新しさがあった。また、紙幣自体のデザインを取り上げることも、デザインをテクストとして読み解く、という点で従来の文学研究を超えた新しい手法である。

２．研究の目的

本研究は、アメリカにおける紙幣制度の度重なる変遷とアメリカ小説における想像力の変化の間に、なんらかのパラレルな関係が存在するのではないかという仮定の下に、両者を比較することを目的とする。これまで文学研究のみならず、社会学、経済学においてもほとんど対照されることのなかった小説と紙幣であるが、実は紙幣は小説と同じく印刷技術によって大量の複製を作成することが可能になったメディアであり、また物質的価値を持たず、「読まれる」ことによって初めて価値を現前させるという点においても共通している。私のこれまでの研究では、この従来の研究においては盲点ともいえた両者の間を関連付けてきたが、それをさらに発展させて通時的にアメリカの小説と紙幣の関係性を検証し、アメリカ文学史全体を読み直すことを目標とし、従来の文学研究や社会学、経済学の枠組みを超えた領域横断的で革新的な研究とすべく努力してきた。

そうすることによって通常はあまり並置されない文学と経済制度というふたつの領域の間に文化研究的な新たな視点をつくりだし、貨幣を介した経済的な営みと一見それとは関わりをもたないかに見える文学が、いかに同じ時代的イデオロギーの産物でありその思想的拘束を免れえないかを論じ、究極的には通常水と油のような文学と経済の関係を、実は親和性を持つものとして明らかにすることを目標とした。

３．研究の方法

アメリカでの資料収集及びリサーチをもとに、各論の構想、執筆を行い、学会発表や論文投稿を通じてその成果を発表してきた。以下に具体的な活動を示す。

（１）2008年9月、スタンフォード大学でのリサーチ。論文（１）に登場する紙幣のデザインをした画家である Will Hicok Low に関して資料に当たる。

（２）2009年2月、Washington DC.でのリサーチ。Bureau of Engraving and Printing を訪問し、オフィスの一室に飾られ、公開されていない上記 Will Hicok Low の手による絵画“History Instructing Youth”を見せてもらい、またスミソニアンや Library of Congressでも資料収集。論文（１）につながる資料を発掘。

（３）この間に論文（３）を執筆、完成。

（４）2009年、Mark Twainと紙幣の関係について、Twain の同時代人である合衆国大統領Ulysses Grantとの関係から、Grantの人生を取り込んだ未完の作品"Which was the Dream?"を題材に考察。bimetallismに関する議論と同時に、サインと主体をめぐる混乱の様子をトウェインによるホーラス・グリーリーのサインの偽造も交えつつ考察。マーク・トウェイン協会でのシンポジウム「マーク・トウェインと資本主義」で口頭発表。活発な議論を受けてさらに考察を深め る。

（５）2010年、前項での発表を発展させて論文(２)を発表。

（６）2010年7月、甲南英文学会にて学会発表（１）を行い、そこでの議論を発展させるとともに次のHerman Melville “Bartleby”論の準備も兼ねて、9 月サンフランシスコおよびバークレーでさらなるリサーチ。

（７）2011年3月、上記（６）の活動を基に

まとめた論文（１）がアメリカ学会の審査を通り『アメリカ研究』に掲載。
（８）Herman Melville “Bartleby”論を構想、執筆。2012 年 3 月に学会誌に投稿。
（９）2011 年 9 月、次の各論として構想している Jack London *The Assassination Bureau* 論のリサーチのためカリフォルニア州 Glen Ellen の Jack London Historic Park および Jack London Museum を中心にリサーチ。

４．研究成果

アメリカ小説における想像力と同時代の紙幣制度との間の共鳴をいくつかの作品を通して考察した。論文として結実したのは Paul Auster, Mark Twain, Frank Baum についての各論 3 本であり、また、未出版であるが Herman Melville に関する論文を本科研費の補助を受けている期間に構想執筆、現在学会誌に投稿し審査中、引き続く各論として Jack London *The Assassination Bureau* 論を構想中である。
具体的内容を以下に記す。

「(E)x Marks the Spot --- Paul Auster *Brooklyn Follies* と 9.11 後のリアリティ---」 では、Paul Auster 著 *Brooklyn Follies*(2005)で描かれる手書き原稿の偽造に天才的偽造画家 Elmyr de Hory との共通点を見出し、そこからリアリティの問題へと議論を展開、物語の結末が 9.11 によってもたらされることから、数々の陰謀論に見られるような 9.11 後のリアリティの変容を、ジョージ・W・ブッシュの肖像を掲げたジョーク紙幣 Deception Dollar に共通してみられるものとして論じた。
「Twain の書いた Ulysses S. Grant のサイン―“Which was the Dream?”とサイン・主体・Bimetallism―」 では、Mark Twain と紙幣の関係について、Twain の同時代人である合衆国大統領 Ulysses Grant との関係から、Grant の人生を取り込んだ未完の作品"Which was the Dream?"を題材に考察。bimetallism に関する議論と同時に、サインと主体をめぐる混乱の様子をトウェインによるホーラス・グリーリーのサインの偽造も交えつつ考察。2009 年マーク・トウェイン協会でのシンポジウム「マーク・トウェインと資本主義」で口頭発表。活発な議論を受けてさらに考察を深める。２０１０年度に協会発行のジャーナルに論文版掲載。
本発表では 19 世紀末の貨幣の本位をめぐる議論とトウェイン作品を関係づけたが、その成果はそのまま、この次の課題として考察中の Frank Baum, *Wonderful Wizard of Oz* をめぐる論考の土台となる。
「紙の上のエメラルド・シティ---*The Wonderful Wizard of Oz* と紙幣制度---」では、従来経済史学者によって１９世紀末金本位制と金銀複本位制をめぐる議論のアレゴリーとして読まれてきたこの作品の解釈をもう一歩展開し、もうひとつ作中で重要な役割を担う「緑」に Greenback に代表される紙幣を読み込み、ひいては作中のロジックが「紙幣的な」ロジックであり、電気や蒸気といった同時代のテクノロジーと共鳴したうえでそれらを題材にしていることを指摘した。2010 年甲南英文学会で口頭発表ののち、アメリカ学会の学会誌『アメリカ研究』に投稿、掲載された。
次に Herman Melville の "Bartleby, the Scrivener"について、この作品が「複製への抵抗」を描いているという点を紙幣制度と絡めて論じた「複製への抵抗:Bartleby と貨幣、そして解釈」を執筆、学会誌に投稿。現在審査中。本論は、作中で繰り返される決まり文句の"prefer"という単語が他の登場人物たちに複製されていくことに主人公が抵抗を示すという見解をもとに、そこに同時代の紙幣制度や fantasy note と呼ばれた偽札との共鳴を読みとり、最後には作品内の関係がテクストと読者の間にも複製されつつも、そこにもテクストが抵抗をしているという読みを提示している。
20 世紀作品では Auster しか扱えなかったため、通時的にアメリカ文学全体を包括するためにはさらなる各論が必要だが、これまでの研究と合わせ、19 世紀の大きな枠組みでの通時的な研究としてはある程度まとまった形となった。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）

（１）<u>秋元孝文</u>　「紙の上のエメラルド・シティ---*The Wonderful Wizard of Oz*と紙幣制度」
（『アメリカ研究』 45［2011］216-218）
査読あり

（２）<u>秋元孝文</u>　「Twainの書いたUlysses S. Grantのサイン―“Which was the Dream?”とサイン・主体・Bimetallism―」（『マーク・トウェイン　研究と批評』9［2010］33-41）
査読なし

（３）<u>秋元孝文</u>　「(E)X Marks the Spot ---Paul Auster *Brooklyn Follies* と 9.11 後のリアリティ---」（『甲南大学紀要文学編』160［2010 年］89－101）

査読なし

〔学会発表〕（計２件）

（１）秋元孝文「紙の上のエメラルド・シティ ---*The Wonderful Wizard of Oz*と紙幣制度」
甲南英文学会　2010年7月3日　於甲南大学

（２）秋元孝文　「Twainの書いたUlysses S. Grantのサイン―“Which was the Dream?”とサイン・主体・Bimetallism―」（シンポジウム　「マーク・トウェインと資本主義」）
日本マーク・トウェイン協会全国大会　2009年10月9日　秋田大学コンソーシアム

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計◇件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
秋元　孝文（AKIMOTO　TAKAFUMI）
甲南大学・文学部・教授
研究者番号：70330404

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし